

○參照第六

(別紙)

大不列顛理學獎勵會ノ提議ニ關 スル委員會ノ決議

震乙第一一八號

去月十一日付專第四〇號ヲ以テ英國理學獎勵會ノ舉ニ贊同ス
ヘキヤ否ノ義ニ付御照會ノ趣旨承即チ本會ニ於テハ委員會相
開別紙ノ通議決致候間右ニテ御了知相成度此段及御回答候也

震災豫防調查會長

明治三十年六月四日 理學博士 菊池大麓

専門學務局長法學博士木下廣次殿

之ヲ試驗セシメタル後現今本邦へ輸送中ナレハ來着次第之
ヲ便宜ノ場所ニ据エ付ケ其作用ヲ調査シ之ニ依リテ觀測シ
タルモノハ果シテ實ニ地殻ノ微動ニ起因スルヤヲ研究セント
ス其結果ハ之ヲ本會ノ報告ニ掲載シ報告ハ時宜ニ由リ之
ヲ歐文ニ譯シ歐米各學者間ニ配布スルノ計畫ナリ該會ヘモ
亦送付スヘシ

該會ヨリ提出ノ報告中ニ示セル測定器ハ即前記ミルン氏ノ
考案セシモノニ少々ノ變化ヲ加ヘタルモノナリ之ヲ「レベ
ウル・バスウヰツチ」水平振子ト併置シ之ヲ比較スルハ亦頗

ル趣味有ル可シ因テ本會ハ該會ノ舉ハ地震研究上甚ダ重要ナルヲ認メ政府ニ於テ之ニ贊同相成リ然ル可シトス

(參照)

專第四〇號

英國理學獎勵會ニ於テ地震ニ關スル學術上調査ノ儀ニ付各務省ヨリ照會有之候處先以テ右ニ關シ贊同スヘキヤ否ノ義ニ付御意見承知致度此段及御照會候也

文部省專門學務局長

明治三十年五月十一日 法學博士木下廣次

ヨリ申出候儀有之候ニ付テハ右ニ對スル諸否御詮議ノ上御回報相成度此段及御照會候也

明治三十年四月廿八日 外務大臣伯爵大隈重信

帝國大學總長濱尾新殿

震災豫防調查會長理學博士菊池大麓殿

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶殿

(別紙)
送第四七號

英國理學獎勵會(British Association For the Advancement of

Science)ニ於テ地震ニ關スル學術上ノ調査ニ付各國ノ協力ヲ得度希望ニ有之候ニ付テハ帝國政府ニ於テ之ニ向テ協力ヲ與フルヲ同意スヘキヤ否承知致度旨同協會ヨリ差出候別紙回章并小冊子相添本國政府ノ命ニ依リ在本邦英國公使

(別紙)

夫レ適當ノ測定器ヲ用ヰハ地球ノ一部ニ起ル大震ノ波動ヲ
他部ニ於テモ測定シ得ヘキヲ以テ英國理學獎勵會地震調査
委員ハ地震波動ノ測定ヲ擴張シ整頓セント欲ス希クハ貴國
政府斯舉ニ贊同ヲ表セラレントヲ

右目的ヲ達セソニハ各觀測所ニ於テ同一ノ測定器ヲ使用ス
ヘシ去レハ茲ニ委員ハ使用法簡易ニシテ精密ナル成績ヲ供
スルニ足ルト認ムル測定器ヲ貴國政府ニ紹介ス別紙報告書
二頁十四頁ニ於テM字ヲ以テ表示シ又四九頁ニ於テ説明ヲ
付シタルモノ即チ是ナリ

委員ハ貴國政府ニ於テ該測定器ヲ購求シ之ヲ以テ測定ヲ爲
サル、ヤ否ヤヲ知ラント欲ス該器ノ代價ハ運賃及付屬品ヲ
合シ大凡英貨五十「パウンド」ナリ政府ニ於テ本會ノ趣旨ヲ
贊シ購求スヘキ通照アラハ其製作ニ付テハ適當ナル製作者
ニ紹介シ且ツ其据付及使用方法ニ付説明書等ヲ送付スヘシ
貴國觀測所ニ該器ヲ据付ケ測定ヲナシタル件ハ其報告ヲ本
會ニ送ラレンコト請フ本會ハ委員ヲシテ之ヲ調査分類シ他
所ニ於ケル現象ト比較セシムヘケレハナリ又其結果ハ貴國
觀測所ヘ時々報告スルコト急ラサルヘシ

本會ノ主眼トスル所ハ震動ノ地球ヲ繞リ又ハ地球ヲ通シテ

波及スル速度ヲ確メントスルニアルヲ以テ各所ヨリノ報告
ニハ各箇波動ニツキ精密ニ時ヲ記サレントヲ望ム

現今右目的ヲ達セソニハ水平動ノ單一原素ヲ知ルニ足ルノ
器械ヲ以テ充分ナリト信ス本會ノ紹介スル測定器ハ此目的
ニ充ツルニ足ル

前述ノ觀測ヨリ生スル結果ノ鮮少ナラサルハ本會ノ信スル
所ニシテ海底震動ノ中心モ恐らくハ之ニ依テ確定シ海底ノ
震動ニ關シテハ新智識ヲ發揮シ震動ノ種類ヲ明瞭ナラシム
ル現象ヲ發見シ微弱ノ震動ヲ驗シ得ヘキ器械ノ發明ヲ催シ
水平ノ地方的震動等ヲ瞭然タラシムルヲ得シ

本會ハ信ス貴國政府ハ吾人ノ生活スル地球ニ關スル智識ヲ
發達セシムル斯舉ニ贊同ヲ與ヘラル、ヲ茲ニ一書ヲ裁シテ
貴下ニ呈ス

地震調査委員會長

デーヴィッド・シモンズ

名譽書記

シーザー・ダビットソン

ゼリー・ミルン

宛名

追テ回答ハ西倫敦「ブルリングトンハウス」英國理學獎

勵會地震調查委員宛ニテ送ラレントヲ希フ